

今月はICOの10月コーヒーマーケットレポートに加え、ロイター及び、NCA、SCA ホームページから皆さんがご興味のあるようなトピックスを4件お届けします。



2016/17年度コーヒー輸出量、新記録更新

2017年9月のコーヒー輸出量は8.34百万袋だった（前年9月の輸出量は9.8百万袋）。

2016/17年度最終月の輸出量は減少したが、通年輸出量は2015/16年度の116.89百万袋を4.8%上回り122.45百万袋となった。コロンビアマイルドコーヒー輸出量は8%増え14.66百万袋、アザーマイルドコーヒーは15.6%増加し27.02百万袋、ブラジルナチュラルコーヒーは2.6%増え35.84百万袋となったが、ロブスタコーヒーはほぼ変わらずの44.93百万袋であった。2016/17年度世界コーヒー生産量は、主にホンジュラスの生産量が増えたことにより、2015/16年度に比べ3.4%増の157.44百万袋に上方修正された。10月、ICO複合指標価格の月間平均値は下落を続け、2016年5月の平均値119.91米セント/B 以来の安値120.01米セント/LB となった。

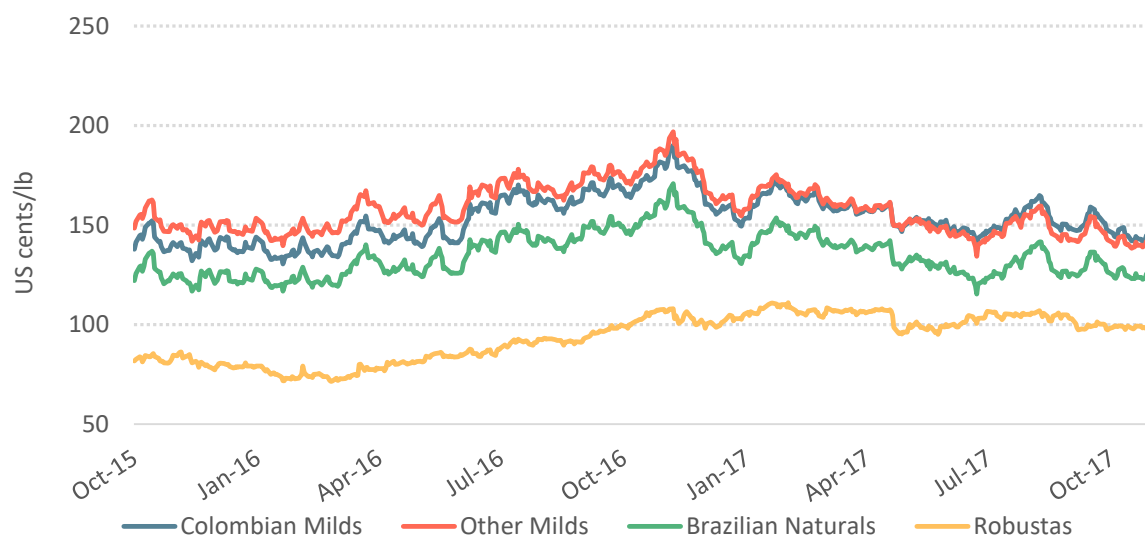
図 1: ICO 日次複合指標価格



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

コーヒー価格は2017年8月末から下落を続けたが、10月は、月末に下げたとは言えるものの比較的安定した値動きだった。10月、ICO複合指標価格は118.36米セント～122.79米セント/LB幅の値動きで月間平均値は、9月平均値より4.45米セント低い120.01セント/LBとなった。

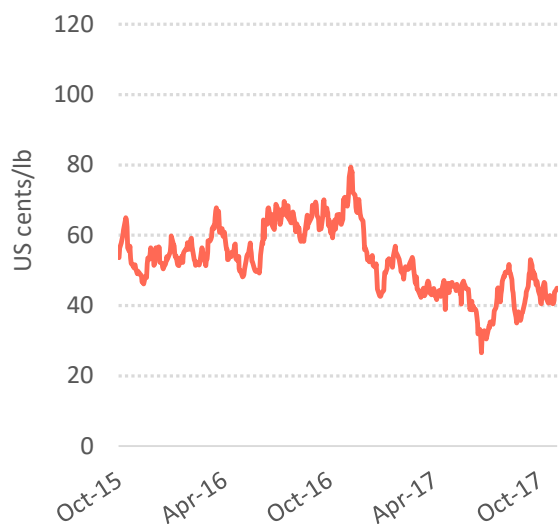
図 2: ICO 日次グループ指標価格



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

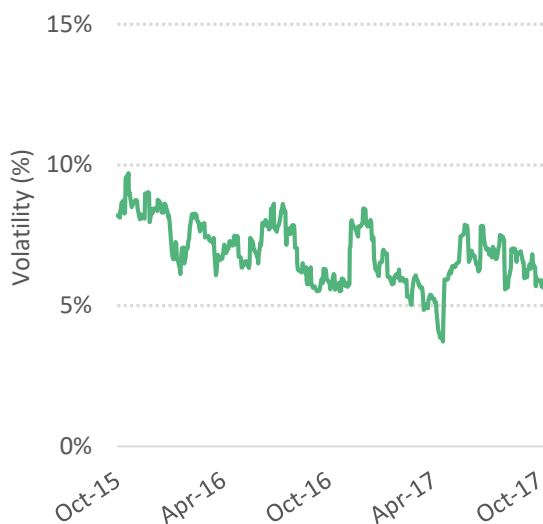
アラビカグループ指標価格は10月第1週に少し上昇したとはいってもその下落傾向が続いた。アラビカ3グループ全ての指標価格が9月に比べ下落し、コロンビアマイルド、アザーマイルド、ブラジルナチュラルは夫々4.8%、4%、3.9%下がった。アラビカグループに比べロブスタグループは相対的に安定しており、月中は殆どの期間98.16～99.46米セント幅内の値動きだったが最終日は94.62米セントにまで急落した。結果としてロブスタグループ指標価格の月間平均値は9月に比べ0.8%の下落に留まった。ニューヨークとロンドン先物市場で測られる10月のアービトラージ平均価格は、3か月上昇した後、7.9%下げ42.62米セントになった。またICO複合指標価格の価格変動率は更に0.5%下がり5.8%になった。

図 3: ニューヨークとロンドン先物市場のアービトラージ



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

図 4: ICO 複合指標価格の30日移動平均価格変動率

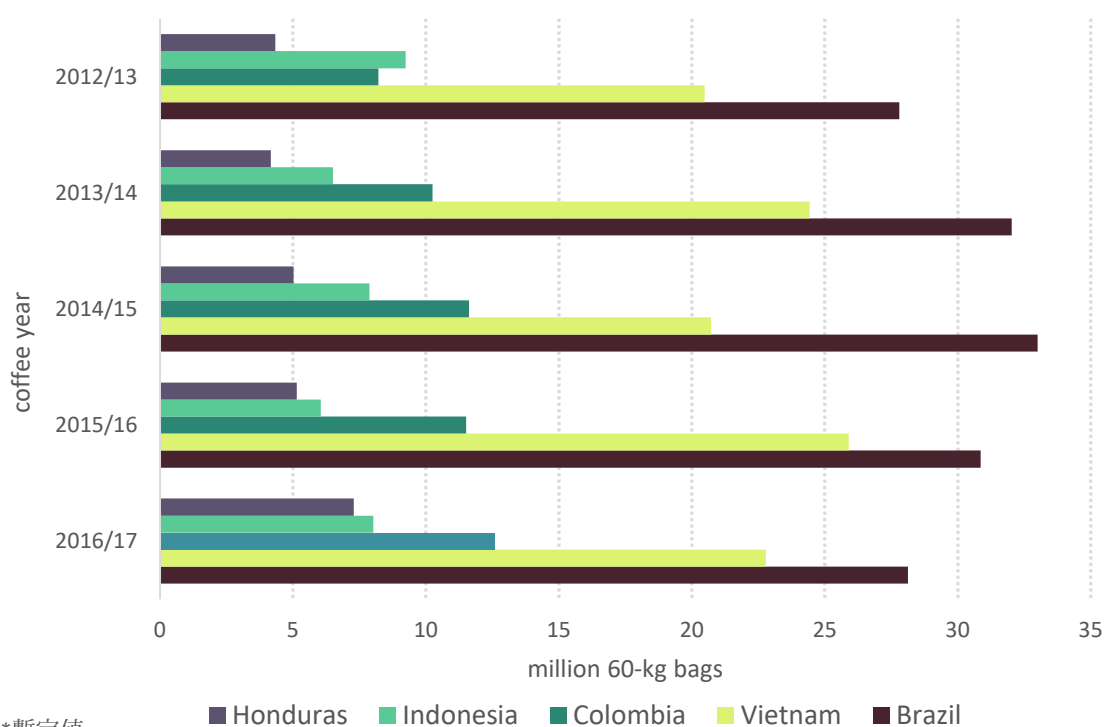


© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

現在、全てのコーヒー輸出国で2017/18コーヒー年度の収穫が進行中である。加盟生産国から届いた最新情報に基づき、2016/17年度生産量予測を2015/16年度に比べ3.4%多い157.44百万袋に上方修正した。アラビカコーヒーの生産量を、3グループ全ての増産を反映し、14.7%増の101.55百万袋とした。コロンビアマイルドの生産量を2.7%増の15.82百万袋、アザーマイルドを15.6%増の30.29百万袋、ブラジルナチュラルを18.1%増の55.44百万袋とした。しかし、ロブスタコーヒー生産量は12.2%減の55.89百万袋となった。2016/17年度の 아프리카、メキシコ・中米地域、南アメリカのコーヒー生産量は5.3%、16.3%、8.6%と夫々増えているが、アジア地域は9%の減産を予想している。特にメキシコ・中米地域の生産量が増えているのは、ホンジュラスがコーヒーサビ病被害から立ち直り、天候にも恵まれたことで大幅増産になったことによるものである。

2017年9月の輸出量は8.34百万袋だった（2016年9月は9.79百万袋）。しかし、2016/17年度の通年輸出量は、最終月の輸出量が減ったと言うものの、2015/16年度の輸出量116.89百万袋と比べ4.8%多い122.45百万袋になった。2016/17年度のコーヒー輸出量の増加はアラビカコーヒーグループの生産量が増えたことを反映したものである。コロンビアマイルドは8%増の14.66百万袋、アザーマイルドは15.6%増の27.02百万袋、ブラジルナチュラルは2.6%増の35.84百万袋である。一方ロブスタグループは、2016/17年度の生産量は大幅に減少したが、輸出量はそれ程変わらず44.93百万袋だった。2016/17年度10大コーヒー生産国の中で、2015/16年度に比べ輸出量が減ったのはブラジルとベトナムのみである。

図 5: コーヒー生豆輸出*



*暫定値

© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

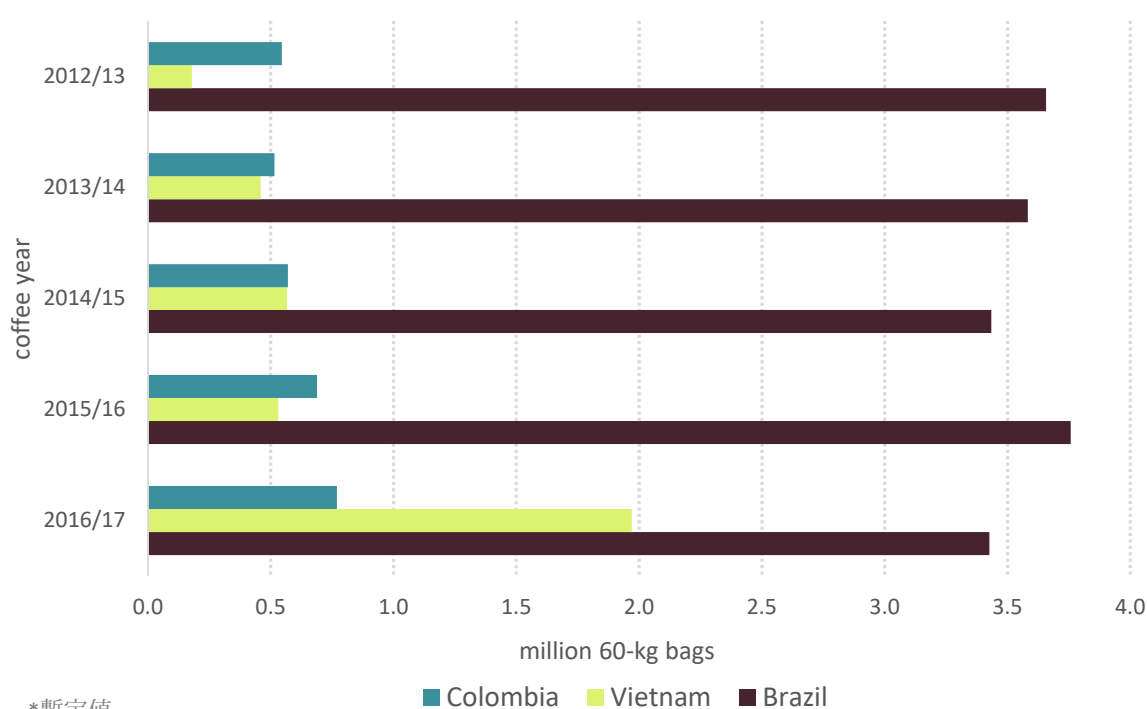
2016/17年度、ブラジルのコーヒー輸出量は前年度比8.8%減の31.58百万袋だったが、生産量は9.2%増の55百万袋だった。2015/16年度に比べ、2016/17年度の輸出数量は、第一回調査ではコーヒー生豆とソリュブルコーヒーの両方とも8.8%減少し、夫々28.13百万袋、

3.43百万袋となった。焙煎コーヒーの輸出量も減少したが、全輸出量に占める割合は1%以下である。

ベトナムのコーヒー輸出量は年により増減しながら、最近15年間では年率5.5%増加している。同国の2016/17年度コーヒー輸出量は、輸出量記録だった前年度に比べ6.4%少ない24.76百万袋だったが、しかしこの数字でも過去3番目に多い輸出量である。コーヒー生豆の輸出量は、12%減の推定22.79百万袋で、同年度の全コーヒー輸出量の92%を占めている。しかし、ソリュブルコーヒーの輸出量は三倍以上増え1.97百万袋となった。2016/17年度コーヒー生産量は前年度比11.3%少ない推定25.5百万袋だが、この数字は2012/13年度以降では最も低い数字である。

コロンビアの現時点での2016/17年度生産量予想は2015/16年度比3.5%増の14.5百万袋であり、5シーズン連続の増産となっている。同国の輸出量は、港湾ストで船積み問題にあった2015/16年度以外は、生産量の増加を反映して増えている。コロンビアのコーヒー全輸出量は、生産量増加が供給可能量を増やし、前年度比9.6%増え13.46百万袋となっている。全コーヒー輸出量の93%を占めるコーヒー生豆輸出量は12.57百万袋だった。またソリュブルコーヒー輸出量は0.77百万袋となり、2016/17年度全輸出量の6%だった。

図 6: ソリュブルコーヒー輸出*



インドネシアのコーヒー輸出量は2015/16年度の6.12百万袋から2016/17年度は11.1百万袋に増加した。第一回調査によると全輸出量の72%を占めるコーヒー生豆の輸出量は32.6%増加し8百万袋となった。

2016/17年度、ホンジュラスのコーヒー生豆輸出量は41.8%増え7.29百万袋となった。3年連続して輸出量は増えており、これにより同国は2016/17年度コーヒー輸出国の中で5番目に輸出量の多い国となった。恵まれた天候とコーヒー木の植え替えプロジェクトに起因する生産性の改善等が生産量と輸出量を増やした要因である。

暫定数値ではるが、2016/17年度世界コーヒー消費量は、2年連続して増加した後、ほぼ横這いの155.06百万袋となった。2016/17年度、世界コーヒー消費量は概ね変わらなかったが世界コーヒー生産量が増えた為、需給バランスは、2年連続しての供給不足から、2.38百万袋の供給過剰となった。2017/18年度コーヒー市場は、前年度から積み増された期初在庫が充分あるので余裕を持ったスタートになるだろう。

以上

表 1: ICO 指標価格及び先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
Oct-16	142.68	172.28	178.96	153.15	103.65	160.07	95.30
Nov-16	145.82	177.85	184.12	157.72	103.72	165.24	95.40
Dec-16	131.70	156.64	161.78	137.14	101.85	143.04	93.66
Jan-17	139.07	164.96	168.61	145.70	108.32	152.24	100.24
Feb-17	137.68	163.67	166.35	145.50	106.49	148.64	98.46
Mar-17	134.07	158.40	160.15	139.67	106.73	143.38	99.01
Apr-17	130.39	154.97	155.40	136.09	103.58	139.25	95.34
May-17	125.40	151.41	150.00	131.21	98.36	135.45	90.35
Jun-17	122.39	146.12	143.22	123.71	101.95	128.18	93.11
Jul-17	127.26	152.51	149.66	129.19	104.94	135.71	96.03
Aug-17	128.24	155.15	149.88	131.93	104.52	138.11	94.89
Sep-17	124.46	151.47	146.56	129.67	99.18	135.95	89.69
Oct-17	120.01	144.26	140.71	124.55	98.39	131.00	88.38
% change between Oct-17 and Sep-17							
	-3.6%	-4.8%	-4.0%	-3.9%	-0.8%	-3.6%	-1.5%
価格変動率 (%)							
Sep-17	6.3%	6.6%	7.0%	7.7%	6.5%	8.3%	6.9%
Oct-17	5.8%	6.5%	6.8%	7.5%	5.0%	8.5%	6.0%
Variation between Oct-17 and Sep-17							
	-0.5	-0.1	-0.2	-0.2	-1.5	0.2	-0.9

* 第2限月と第3限月の平均値

表 2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milds	Colombian Milds	Colombian Milds	Other Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	New York*
	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	Brazilian Naturals	Robustas	Robustas	London*
Oct-16	-6.68	19.13	68.63	25.81	75.31	49.50	64.77
Nov-16	-6.27	20.13	74.13	26.40	80.40	54.00	69.84
Dec-16	-5.14	19.50	54.79	24.64	59.93	35.29	49.38
Jan-17	-3.65	19.26	56.64	22.91	60.29	37.38	52.00
Feb-17	-2.68	18.17	57.18	20.85	59.86	39.01	50.18
Mar-17	-1.75	18.72	51.66	20.48	53.42	32.94	44.37
Apr-17	-0.43	18.88	51.40	19.31	51.82	32.51	43.92
May-17	1.41	20.20	53.05	18.79	51.64	32.85	45.09
Jun-17	2.89	22.41	44.17	19.51	41.28	21.76	35.07
Jul-17	2.85	23.32	47.57	20.47	44.72	24.25	39.68
Aug-17	5.27	23.22	52.18	17.95	46.91	28.96	43.22
Sep-17	4.91	21.80	52.29	16.89	47.38	30.49	46.26
Oct-17	3.55	19.71	45.87	16.16	42.32	26.16	42.62
% change between Oct-17 and Sep-17							
	-27.8%	-9.6%	-12.3%	-4.3%	-10.7%	-14.2%	-7.9%

* 第2限月と第3限月の平均値

表 3: 世界のコーヒー需給バランス

Crop year	2013	2014	2015	2016*	% change 2015-16
RODUCTION	152 232	149 053	152 253	157 437	3.4%
Arabica	90 284	86 257	88 568	101 552	14.7%
Robusta	61 948	62 796	63 686	55 885	-12.2%
Africa	16 244	16 014	16 349	17 208	5.3%
Asia & Oceania	46 453	45 974	49 566	45 083	-9.0%
Mexico & Central America	16 717	17 115	17 423	20 269	16.3%
South America	72 818	69 951	68 966	74 877	8.6%
CONSUMPTION	149 022	151 758	155 469	155 061	-0.3%
Exporting countries	46 109	47 245	48 244	48 298	0.1%
Importing countries (Coffee Years)	102 913	104 513	107 225	106 763	-0.4%
Africa	10 597	10 754	10 794	10 735	-0.5%
Asia & Oceania	30 701	32 550	33 611	33 669	0.2%
Mexico & Central America	5 156	5 235	5 306	5 237	-1.3%
Europe	50 179	50 912	51 590	51 544	-0.1%
North America	27 706	27 359	28 931	28 535	-1.4%
South America	24 682	24 949	25 237	25 341	0.4%
BALANCE	3 210	-2 705	-3 216	2 376	P

単位：千袋

P =positivechange

*Estimated

表 4: 輸出国の総輸出

	September 2016	September 2017	% change	October – September		
				2015/16	2016/17	% change
TOTAL	9 791	8 340	-14.8%	116 890	122 449	4.8%
Arabicas	6 035	5 482	-9.2%	71 873	77 516	7.9%
Colombian Milds	1 077	1 175	9.2%	13 576	14 657	8.0%
Other Milds	1 837	1 793	-2.4%	23 364	27 019	15.6%
Brazilian Naturals	3 121	2 514	-19.4%	34 933	35 839	2.6%
Robustas	3 756	2 858	-23.9%	45 017	44 934	-0.2%

単位：千袋

Full trade statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 5: ニューヨークとロンドン先物市場の認証在庫量

	Oct-16	Nov-16	Dec-16	Jan-17	Feb-17	Mar-17	Apr-17	May-17	Jun-17	Jul-17	Aug-17	Sep-17	Oct-17
New York	1.44	1.42	1.40	1.45	1.49	1.53	1.58	1.65	1.70	1.73	1.86	2.03	2.15
London	2.28	2.38	2.39	2.73	2.80	2.85	2.87	2.87	2.81	2.63	2.52	2.52	2.19

単位：百万袋

—トピックス（１）—

働く人達は忙し過ぎてコーヒーを飲む暇もないのだろうか？

2017 年 10 月 4 日全米コーヒー協会（NCA）Kyra Auffermann

職場でのコーヒー飲用と労働生産性に関する新しい研究発表

私はコーヒーの仕事に携わる前から、コーヒーを飲んで生産性の向上を図っていた（次に試すのが WiFi, サウンドトラックそしてまたコーヒーを飲むという具合である）。

幸いなことにカフェインが生産性を向上させるということは科学的にも証明されている。研究発表によるとカフェイン摂取は労働者の創造性と集中力を増幅し職場の事故防止にも効果があるということである。更にコーヒーブレイクは職場の士気や協調性も向上させるようである。

しかし、それにも拘わらずコーヒー科学情報研究所（ISIC）が最近行った調査によると、欧州の三分の一（29%）近い労働者が忙し過ぎて時間がない為に職場ではコーヒーを飲まないということである。

調査で分かったことは、職場のコーヒー飲用習慣は時間、好みの味、生産性向上への欲求で形作られるようである。三分の二以上（68%）の回答者は常に、もしくはしばしばコーヒーを勤務時間中に飲むと言っている。

更にコーヒー消費には明確なパターンがある。即ち朝飲むことが最も多く、次に昼食時（1 – 3 PM）と続き、午後 3 時以降は余り飲まないようである。朝、出勤時にコーヒーを飲む人のかなりの割合（56%）がコーヒーは目覚めを助けると言っており、三分の一以上（36%）がコーヒーを飲むとシャキットすると言っている。

勤務中にコーヒーを飲む主な理由は次の通りである。

- ・味が良い（56%）
- ・コーヒーを飲んだり点てたりする間、小休止したり休養したりできる（40%）
- ・シャキットするもしくは疲れがとれる（両方とも 29%）

43%の人が、その他のカフェイン飲料や非カフェイン飲料を飲むよりコーヒーを飲む方が生産性が向上すると言っているの、労働生産性との関連性が最も強い飲料はコーヒーだと言えるだろう。全回答者の 63%はショートブレイクを採るのは主に生産性の向上が目的だとも言っている。しかし、にも拘わらず全体の 11%の回答者が勤務時間中に食べたり飲んだりしたことがないと言っている。

人々は喜びを得たり、リラックスしたり、シャキットする為にコーヒーを飲むのだとする

と、この調査結果は労働者の中には仕事のストレスから解放されていない人もいるということを示していることになる。労働者はショートブレイクをとらないと健康リスクに晒されたり、健康を害したり、燃え尽き状態になる危険性があるのみならず、会社での労働生産性が低下する可能性もあるということである。

労働生産性協会の労働力分析専門家の James Chandler 博士は、ISIC の調査は職場の労働環境についていくつかの興味深い事柄を示唆していると言っている。例えば、回答者の 3 分の一近くが労働時間中にショートブレイクをとれないと言っているのは、それらの人々は仕事の管理が出来ず、自分自身をストレスに晒しているということである。

Chandler 博士は次のようにも言っている、即ち、『欧州全域で労働者の健康問題がますます重要になっているが、それは高齢労働人口が増えていることにも起因していると。雇用主が労働者に少しでも長く健康で働いてもらいたいなら、カフェインが 2 型糖尿病リスクを軽減するなどというカフェイン消費と健康に関連する ISIC の研究成果を職場環境に取り入れてみる価値があるのではないだろうか』と。

ー トピックス (2) ー

住民一人当たり最も喫茶店の数が多いのは Alaska の Juneau 市である。

シカゴ、2017 年 10 月 17 日 NPDfood グループ Kim Mclynn

Java, cuppa Joe, go juice, hojo 等々コーヒーの呼び名は様々だが、米国のどこにしようがコーヒーを飲む場所にはこと欠かない。コーヒーはレストランや食事を提供する場所でも飲めるが、米国には現在 33129 か所のグルメコーヒーショップが存在する。NPDfood グループのレストラン調査によると、この数字は昨年と比べると 2%増加しているとのことである。

NPD レポートによるとコーヒーショップチェーンに属する喫茶店の数は調査期間中に 5.9%増加し、合計 18445 店舗になった。一方、独立系喫茶店の数は 2.2%減少し合計 14684 店舗だった。NPD 社の 2017 年春版 ReCount レストラン調査によると喫茶店全体の数は過去 5 年間で 2990 店増加したとのことである。

次に別の観点から、住民百万人当たりの喫茶店の数を見てみよう。最も喫茶店密度の高いのは Alaska 州の Juneau メトロ地区であり、同市の人口 32519 人対し喫茶店の数は 22 店舗である。次に多いのが同じくアラスカ州 Anchorage 市で人口 431231 人に対し 170 店舗となっている。その後オレゴン州 Bend 市、ワシントン州 Seattle 市、オレゴン州 Portland 市が続いている。

フードサービス店でのコーヒー消費も増えている。今回実施された NPD フードサービス市場調査によると 2017 年 8 月末までの 1 年間の米国内レストランとフードサービスアウトレット(店舗)のコーヒー注文数は 83 億杯であり、前年度に比べ 2.3%増加している。オーダーの中で最も多いのはレギュラーコーヒー、もしくは昔ながらの伝統コーヒーで、調査期間中の注文数は 44 億杯となっているが、スペシャルティコーヒーの注文数も多く 40 億杯である。NPD フードサービス社のプロダクトマネジメント役員 Greg Starzynski 氏によると『コーヒーチェーンには十分な資金がある為、需要に対応して出店数を増やしている。結果としてチェーン店の喫茶店は増加し、客はそちらに流れる為、独立系喫茶店の客は減り店舗数も減るというサイクルになっている』とのことである。

— トピックス (3) —

平和がコロンビアコーヒーの増産に拍車をかけるだろう。

2017 年 10 月 19 日、ロイター (world news) Marcy Nicholson

San Carlos , Colombia

コロンビアのアンデス山脈から内戦を避け逃避していた農民が、放棄地に戻りコーヒー木を植え世界で有名な高級コロンビアコーヒーを生産している。

政府はかつて紛争地だった地域でのコーヒー生産が復活することでコロンビアコーヒーの生産量が 40%増えるかもしれないと言っている。もしこれが実現すれば世界のマイルドアラビカコーヒーの生産量は約 13%増える計算になる。

世界の大手コーヒーロースターにとって生産量の増加は原料価格の下げを意味するので、彼らはコロンビアコーヒー供給量の増加を大いに期待している。

コロンビアコーヒー生産者連合 (FNC) の資料によると、これまで 950 軒のコーヒー農家が San Carlos 地域に帰農したが、紛争時に離農した農家は 1600 軒だったので、約 60%が帰農したことになる。コロンビアの首都ボゴタから 330 キロメートル (205m マイル) 北西にあるこの地域のコーヒー供給量は、コーヒー耕作地や、労働力が増えることが考えられるので、今後更に増加することが予想されるとのことである。

現在のコーヒー耕作面積は約 800 ヘクタールであり、最も少なかった内戦当時の 400 ヘクタールに比べると倍増している。しかし、FNC データによると内戦前の 1500 ヘクタールに比べるとまだ半分程回復したに過ぎないとのことである。

Libardo Garcia 氏はこの地域に帰農した農民の一人だが、彼は二人の兄弟を内戦で亡く

した（一人は銃で撃たれ、一人は地雷を踏んで亡くなった）。彼と彼の家族は 2001 年に内戦を避け離農し、2015 年に 12 ヘクタール（30 エーカー）の農園に戻ってきた。

Garcia 氏は『我々が帰ってきた時にはコーヒー木は全滅していたが、これまでに 2 ヘクタールの傾斜地に 8000 本の木を植樹した』と言った。

アラビカコーヒーは最高品質の豆であり、コロンビアはマイルドアラビカコーヒーの産地として有名である。彼らは水洗式アラビカコーヒーを生産する為、コーヒーチェリーから生豆を分離した後で乾燥している。

アラビカコーヒーは世界のコーヒー供給量の 60%を占め、残りがロブスタコーヒーである。コーヒーロースターの中には自社コーヒーブレンドにロブスタを混ぜるところもあるが、プレミアムブランドは 100%マイルドアラビカコーヒーを使用している。

政府と反政府ゲリラ FARC が 2016 年後半に平和協定を締結したことで何千人というコーヒー農家を含む多くの人達がもと住んでいた家や農園に帰ってくる道が開けた。何十年に亘る左翼ゲリラ、準軍事組織、犯罪組織、政府軍の間の紛争で 220000 人が亡くなり、数百万人が土地を放棄せざるを得なかった。紛争はほぼ全土に亘る多くの地域に影響を及ぼしたが、政府は特に国の西部地域や南部地域の山地や辺境地のジャングルでの治安維持に苦しんだ。

農民の中には紛争中もこの地に留まった人もいたが、彼らは紛争中コカなどの非合法農作物を生産していたが、今はコーヒーに転作している。コカはコカインを製造する為に使われ、内戦中はコカ生産で得られた現金は武装グループの資金援助として使われていた。

政府は、放棄地に帰農したコーヒー農家と非合法農作物からコーヒーに切り替えた農家のコーヒー生産量が積み増されることで 2020 年にはコロンビアのコーヒー生産量は 20 百万袋（60 kg）にまで増えるかもしれないと言っている（2016 年の生産量は 14.2 百万袋だった）。

紛争地への帰農

アンデス地域の San Carlos では、まだ和平条約締結途中だった 2014 年ごろからこの地域の紛争は下火になっていたこともありコーヒー生産は順調に回復している。政府軍とゲリラの内戦は 1964 年に始まり、この地域で戦いが最も激しかったのは 2000 年ごろだった。Garcia 氏は彼の農園から避難し一時期メデジンで過ごしたが、その後 San Carlos に帰農したのである。彼は農園から歩いて 1 時間程の木の生い茂った山の中にある左翼ゲリラの要塞跡を指さしながら、『私はこの土地を愛しているのでここに戻ってきた』と話した。

彼は『殆どの当時の隣人は未だ戻ってきていないが、それは平和が続くかどうか懐疑的なのか、もしくは既に別の土地で新しい生活を始めているからだろう』と言った。

Garcia 氏は自分の家族をこの地に戻す前に、3年間毎週 San Carlos から 13 km程離れた農園に出向き枯れてしまったコーヒー木を新しい木に植え替える作業をした。

Garcia 氏によると余分な農地は十分すぎる程あるが、十分な労働力が近くにいないので今のところそれが出来ないとのことである。

1000 軒ほどの農家からコーヒーを買っている農協のマネージャー、Rosa Velasques 氏は、『コーヒー新種のお陰で収穫量は増えているが、この地域では労働力が不足している為、まだ新品種が持つ可能性を十分に引き出せていない状況である』と言った。

まだまだ努力が必要だ

世界の大手焙煎業者は世界第 3 位のコーヒー生産国でマイルドアラビカの最大生産国であるコロンビアからコーヒーを買うチャンスが増えると聞いて喜んでいる。

イタリアロースターの Illycafe 社は内戦中には買えなかったこの地のコーヒーを買い始めたが、同社社長の Andrea Illy 氏は『やっここで買えるようになった』と喜んでいる。

Illy 氏によるとここ 2～3 年はこの地域からの買い付け量は毎年二桁成長しており今後もこの調子で伸び続けるだろうと語った。

2016 年、Nestle 系列の Nespresso 社は内戦が終わったこの地から初めてコーヒーを買い付けたが、今年はこの地限定版コーヒーの販売を目指しコーヒー買い付けを始めている。

Nestle Nespresso 社の広報マネージャー Katherine Graham 氏によると『この地域にはつい最近まで誰も立ち入ることが出来ず、誰も味わったことがないコーヒーが多く存在する。』とのことである。更に彼は『非常に高い可能性を秘めた生産地はあるが、更なる開発が必要で、まだまだやらなければならないことが沢山ある』と言った。

スターバックス社は米国国際開発庁（USAID）との提携を広げコロンビアの内戦終了地域の 1000 農家に農業技術訓練を施している。同社はまた米州開発銀行とも提携し主に女性を中心とする 2000 農家にローンを貸し付ける計画も持っている。

コロンビアの起業家 Gonzalo Nabarro 氏は今年初めメデジン市に Piccolo Piacere 社というロースターを立ち上げたが、彼らがコーヒーを買い付ける先は主にかつての紛争地域に住む小農家で、『コカのような別の農作物生産からコーヒーに転作した農家からの買い付けを考えている』と語った。

Rubiela Cuervo さんは、San Carlos 近くに家族と共に戻ってきた。彼女は暴力を嫌

い2005年にメデリンに避難したが、生活に困り、一年後に紛争中にも拘わらずこの地に帰ってきた。彼女はこの地に平和が戻ってきたので農地を増やしている。彼女は『平和な環境下でコーヒーの仕事が雇用を増やし収入が増えることを望むだけだ、二度とこの地を離れるような事態が来ないことを祈ります』と語った。

ートピックス（４）ー

2017年10月11、12日スペシャルティーコーヒー協会（SCA）はグアテマラコーヒー協会（ANACAFE）本部（グアテマラ市）に於いて初めてコーヒーの持続可能性会議：AVANCE（前進）を開催しました。2日間の会議には150人を超えるコーヒー関係者が出席し講演・ワークショップ・パネル討議が開かれ気候変動問題やコーヒー経済の持続性について議論されました。SCA ホームページから同会議の内容紹介記事（SCAニュース）の邦訳をお届けします。

2017年10月25日 AVANCE スペシャルティーコーヒー協会（SCA）

グアテマラ市で開催された第一回SCA持続可能性会議：AVANCE

2017年10月11日スペシャルティーコーヒー協会（SCA）は150人を超えるコーヒー生産者、バイヤー、トレーダー、ロースター、その他コーヒー産業関係者をグアテマラコーヒー協会事務所で開催した会議AVANCEで迎えた。二日間に亘り開催されたこの会議の目的は全コーヒーバリューチェーンの持続可能性組織のリーダーや支援者が一堂に会しコーヒー産業の直面する問題について専門家から話を聞いたり、参加者同士が意見効果する場を提供するというものだった。

SCA参加者にとっては初めてコーヒー生産国で開いた会議だったので、幅広い議論が出来たとのことである。AVANCEはコーヒー産業における様々な役割や経験を積んだ人たちが、英語もしくはスペイン語を話せる人を対象に開催したもので、結果として80名の参加者がスペイン語スピーカーだったので主にスペイン語中心で会議は進められたが、必要な人にはスペイン語と英語の同時通訳が利用出来る環境が準備されていた。

SCAの主任持続可能担当理事（Chief Sustainable Officer）Kim Elena Ionescu 女史によると『AVANCEには中米地域から、かつて一度もSCAイベントに出席したことのない多くの人達も含めスペシャルティーコーヒーのステークホルダーが参加してくれたのでうれしかった』と話した。また、『コーヒーは世界規模の産業なのでこの産業の持続性を可能にする為には生産者を含んだ、また生産者が主導する話し合いをもっと活発に行う必要がある。従い、サプライチェーンを跨った、異文化協力をベースとしたAVANCEのような意見交換の場を設ける必要があるのだ』とも言った。

会議初日は『気候変動』・『農園労働者の権利と労働問題』及び『コーヒーの生産性』に

関する講義・パネルディスカッション・話し合いが持たれた。Ionescu 女史は参加者に対し歓迎の辞を述べると共に S C A 会議の歴史と目的を説明した。彼女はスピーチで、多くの S C A 会員は、コーヒー労働者の労働・収入・気候変動の意味を理解しており、生産者を支援し将来のコーヒー供給を持続可能にするのは SCA の重要な役割だと考えていると話した。その後グアテマラコーヒー協会 (Anacafe) 会長 Ricardo Arena 氏はコーヒー生産の持続可能性に於けるいくつかの問題点について彼自身の見方を披露した。

最初のプレゼンテーションはグアテマラに本社を置くコーヒー生産近代化及び技術開発の為に地域協力開発プログラム (Promecafe) の Rene Leon Gomez 氏により、『世界生産者会議での Promecafe; これまでの成果と次へのステップ』のテーマで行なわれた。彼はコーヒー農園の生産性に影響を与える重要事項及び現実とのギャップ、コーヒーの品質と農園の収益性の関係について話した。

次に Intelligentsia Coffee の Michael Sheridan 氏がこの話を受け『収益性：生産コストを超えて』のタイトルでプレゼンテーションを行った。Sheridan 氏は S C A コーヒーサプライチェーン経済研究のデータを使い、生産現場を離れたコストにフォーカスしこれらの余分な費用が、農家が抱える収益面での問題だとする彼の見方を披露した。

収益性のパネルディスカッションでは、メキシコ連邦政府農牧農村開発漁業食糧省 (S A G A R P A) の Vera Espindola 女史が司会を務め、Michael Sheridan, Rene Leon, Juan Barrios (La Merced 農園) 及び Carlos Reynoso (Manos Campesinos: 農民の手) がスピーカーとなった。スピーカーは夫々自分の見解を述べ活発に議論したが、会場の参加者も議論に参加した。

次のセッションは『農園労働問題』にフォーカスしコーヒーの労働市場の持続可能性について議論した。R G C コーヒー社の Angela Pelaez 女史は『農園労働者：コーヒー産業の可能性と成功の重要なパートナー』と題し、全コーヒーバリューチェーンにとって、またコーヒー産業が直面する問題を解決する為に農園労働者がいかに重要かということ話をした。彼女はケーススタディーとしてコロンビアの Aguadas プロジェクトについて、生産者農協、農園労働者、輸入業者、2 認証団体、S C A、研究者が互いに協力でき、全ての参加者にとって有益なプロジェクトだったと話した。

農園労働問題のパネルディスカッションでは、Michael Sheridan 氏が司会を務め Brandie Sasser 氏 (米国労働省)、Colleen Popkin 氏 (Keurig Green Mountain 社)、Marlene Mazariegos (グアテマラ農業組合) がスピーカーとなり彼ら自身がコーヒー生産者と一緒に仕事をした経験やコーヒー生産者と彼らの協働に関する今後の見通しについて話した。また農園労働者の生活環境を改善する為に何をするべきかについても話し合った。

この日の最終セッションのテーマは『気候変動』についてだった。まず Honduras' s Café Capucas 社の Iris Alvarado 女史が『気候変動：新常態をいかに受け入れるか』のテーマでプレゼンし、彼らの農協や組合員が既に被っている気候変動の影響について話し、これらの影響をいかに和らげるかを、農園レベルでは多角経営について、農協レベルではコンテストと表彰制度などについて説明した。

次にレインフォレストアライアンス社の Michelle Deugd 氏が『気候変動：全体対策と個別対策をいかに調和させるか』のテーマでプレゼンし、地方農家がどのようにして環境に優しくかつ気候変動に賢く対応（Climate smart practice）する能力を磨くことが出来るかを、エコシステム保護・森林再生を利用した自然再生活動、競争力がありかつ包括的な経済成長、地方レベルでのガバナンス向上なども含めて説明した。

気候変動のパネルディスカッションは Farmer Brothers 社の Molly Laverty 女史が司会し、Michelle Deugd 氏、Iris Albvarado 氏、Meredith Taylor 氏（Counter Culture コーヒー社）及び Margarita Chojolan 氏（Catholic Relief Services 社）がスピーカーとして気候変動の影響とコーヒー生産について討議した。

午後のセッションは夕方まで続いたので、参加者には Utz 認証社がスポンサーの Cilo' s Food Craft でのグループディナーがオファーされた。Cilo' s は屋上レストランで、現地特産肉や持続可能認証魚なども提供され、このイベントにふさわしい場所だった。

翌日の会議は Anacafe の Gerardo Flores 氏と Reciprocafe, LLC の Chad Trewick 氏の議論で始まり、Trewick 氏は Flores 氏に Anacafe とグアテマラコーヒーの現状について、特に Anacafe 社が最近発表した『ガテマラコーヒーの生産コストについて』を中心に質問した。生産コストがコンスタントに上昇しているなかでコーヒー生豆先物価格は低迷しており、殆どの生産者は強い危機意識を共有しているが、多くのバイヤーや消費者はそれ程ではなかったことから Anacafe はこの意識を変える為にデータを利用しようとしたものである。

最後に、参加者、スピーカー、司会者がワーキンググループに分かれて前日からのプレゼンテーションを振り返った。これらのプレゼンテーションは各ワーキンググループが、個人や共同で行動計画を立てる際に、また研究の必要性和知識ギャップを埋める為に、そして農園労働者問題、気候変動、農園の収益性向上の3つの問題に対処し、コーヒー産業がこれらの問題を前進させるためにどのような行動を優先させるべきかを議論するのに役立った。

最後に、各グループは当日のグループ討議の総括と結論・コメントを求められた。いくつ

かのテーマは全てのグループ共通のものだったが、特に農園の収益性問題は Avance 会議出席者にとっては最も重要な問題としてクローズアップされた。来月以降 SCA は、3 つの問題に前向きに取り組むつもりだが、特にこの収益性問題についての認識を広め、スペシャルティコーヒー産業供給ソースの発展に努めるつもりである。スペシャルティコーヒー産業の将来を何年にもわたり確実なものにする為には我々が多くの事をやらねばならないことは明らかである。会議の内容・分析については今後、機会があれば更に詳しく紹介させて頂くつもりである。

以上